

平成27年度 学校評価実施報告書

学校名(九条弘道小学校)

3 2回目評価

・重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にわらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定						自己評価		学校関係者評価				
						評価日	平成28年2月29日	評価日	平成28年3月14日			
						評価者・組織	評価委員会		評価者(いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員		
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	分析(成果と課題)	自己評価に対する改善策	学校関係者評価による意見					
1	確かな学力 主体性の育成 言語活動の質の向上 活用能力の向上 読書の習慣化 ・家庭学習の習慣化 ・書く力の育成	・各教科で言語活動を工夫した授業 ・組織を活用して各種調査を分析 ・課題に応じた個別学習やチャレンジ学習、土曜チャレンジ学習の実施 ・100冊読書の定着 ・朝読書の定着 ・読み聞かせの実施 ・図書館との連携 ・15分×学年の家庭学習習慣の定着 ・ノート指導の充実、ノート検定	・しっかりと話を聞いたり相手を意識して進んで発表したりしている。 ・授業がわかりやすい児童は95.6% ・授業はめめてとまめが明確で分かりやすい。 ・ジョイントプログラム等の結果 ・学校でも家で進んで本を読んでいる(児童) ・家庭では読み聞かせや本によくふれあわせている(保護者)。 ・15分×学年以上家庭学習している(児童) ・家庭では読み聞かせや本をよくふれあわせている(保護者)。 ・家庭で学習環境を整えている(保護者)	・進んできている児童は75%。 ・授業がわかりやすい児童は95.6% ・ジョイントプログラム4回目総合の正答率は6年で78.5% ・「できている」児童は80.7%。家庭のニーズ度は26.6%(保護者)。 ・100冊読書達成の児童の増加 ・家庭学習ができていない児童は93.8%。ていねいに書く児童は70.2%。 ・「学習環境を整えている」は84.8%。	⇒	・言語活動を工夫した授業と授業ふりかえりシート(教員)による授業改善が成果。小中一貫教育の学習プランで家庭学習習慣の定着を試行したことも成果として表れている。また、学力補完や補習学習の取組、組織を活用しての全校一斉の取組により、ジョイントプログラム等の結果で成果にみられる。 ・読書好きについては学校や学校運営協議会等の働きかけで家庭での読み聞かせ等の関わりが増加している。	⇒	・授業では教員が振り返りシートや板書日記等で授業改善が図れたので、来年度も言語活動の質の向上と活用能力の向上を図る。 ・小中一貫教育で「九条学習プラン」をもとに「表現」に特化した言語活動の充実や家庭学習による自主学習の習慣づけを行う。 ・組織的に学力向上支援システムを活用して、各調査の課題を明確にし、全校一斉の取組を継続して行う。	⇒	・学校での「自由研究発表会」や「ノート検定」や「No.1ノート」の掲示の取組や「ふれあいタウン」の学習等、様々な児童のための取組が学校でなされ素晴らしい。来年も継続してほしい。 ・「ふれあいタウン」に関して児童の興味や情報収集、受答え等の表現力は年々向上してきている。 ・児童は、何事にもよく努力ががんばり、学力も向上していることがすごい。 ・親子読書等、大人も読書してほしい。	⇒	・効果が高い行事や取組の継続。 ・学校運営協議会で、学校教育目標の具現化に向けて、子どもたちのために家庭や地域でできることを「子どもを語る会」で、具体的に語り合い、実践する。 ・学習支援や体験活動支援では、学校運営協議会の各委員会と連携し、今以上に充実を図ってきたい。 ・図書部を中心に学校運営協議会等と組織的・協働的に子どもの読書意欲への向上と活用能力の向上を図る。
2	豊かな心 人権感覚の育成 規範意識の徹底 協働活動を通じた自己有用感・主体性・豊かな心の育成	・人権教育「なかよしの日」(難聴・同和・総務・いじめ防止等)や人権月間、人権啓発懇話(毎回)の実施 ・学校のきまりと時間厳守 ・挨拶や当番活動の徹底 ・生活プランの試行 ・ピア・サポート活動やキッズボランティアの取組の推進 ・保護者や大人によるほめ言葉・ふりかえりの場の設定	・学校生活が楽しい。 ・学校の友だちと仲よくできている。 ・学校のきまり・予定や時間を守っている。進んで挨拶をしている。掃除の時間責任を持てきれいにしている。 ・組や他学年の役にたっている ・「ありがとう」を言ってもらったりほめてもらっている	・「学校生活が楽しい」児童は95.8%。「友だちと仲よく」は94.4%ができています。 ・児童のきまりの遵守は93.8%。時間遵守は90.9%。挨拶は86.8%。掃除は89.5%ができています。 ・「役にたっている」児童は86.9%。 ・「ありがとう」を言ってもらったりほめてもらっている児童は93.5%。 ・ほめている保護者は91.8%。	⇒	・人権教育の成果で、「学校生活が楽しい」や「友だちと仲よく」の児童の実現度は高い。 ・規範意識の徹底で、きまりや時間の遵守や当番活動が充実し成果が見られる。 ・児童の自己有用感「ふれあいタウン」の学習やピア・サポートでの活動が多くあったため、「ありがとう」と言ってもらえる機会が多く上昇した。	⇒	・人権教育の年間計画や系統的な指導内容一貫表の作成を計画的に行い、さらなる深化を図る。さらに人権教育の成果を図る評価システムを構築する。 ・規範意識は、中学校との一貫指導で「九条生活プラン」を行い、徹底指導する。 ・協働体験活動を子どもも発信を行い、自己有用感を高める。体験して感じたことを表現する場を充実させる。 ・「ふれあいタウン」の学習は継続し、保護者や地域・大人等からほめてもらい、自己有用感を高めるようにする。	⇒	・「友だちと仲良くでき、学校が楽しい」と感じる児童がどちらも高評価であることは素晴らしい。 ・地域では子ども達と積極的に関わりを持っていく取組を考えている。来年度も学校運営協議会等が中心となって取組を考えていきたい。 ・長期宿泊自然体験学習に学校運営協議会の活動体験委員会として参加したが、児童が協働していきいきと活動していた。この様な活動を続けていく。	⇒	・学校運営協議会の各委員会の体験活動を今後も学校教育活動と協働して行っていく。また、学校運営協議会の行事等を通して、児童に自分の学校が素晴らしいという誇りやそういう地域に存在している自分の有用感を高めていく。 ・学校運営協議会や地域の方に、児童の発表や振り返りの場等に参加し、ほめ言葉等の声かけをしてもらうことにより児童の自己有用感を高めていく。
3	健やかな体 基本的な生活習慣の確立 命を守る態度の育成	・生活リズムの定着、「生活リズム表」の遵守 ・「いきいき週間」の取組 ・命を守る教育の取組 ・遊びや運動・体験活動を通じた心と身体の育成	・早寝・早起き・朝ごはん等の生活がいつも進んでできているか(児童) ・守らせているか(保護者) ・安全に気がついた行動や家で安全の話をする ・家庭で安全の実行(保護者)	・「できている」児童は88.7%。「守らせている」保護者は78.6% ・「できている」児童は73.9% ・「できている」保護者は89.5%	⇒	・「生活リズム表」を活用して「いきいき週間」で、養護教諭と共に児童・保護者の意識向上を図ってきた成果が出てきた。 ・学校だより等の各種おたよりや懇談会等で、命を守る指導や学校運営協議会も含む安全への意識の向上を図る。	⇒	・生活改善が必要な児童・家庭には個別指導が必要。積極的な家庭訪問を強化していく。保健だよりや学級通信、HP等でも積極的な発信を継続していく。 ・学校運営協議会やPTAと共に、防犯教育・防災教育・安全教育の取組を継続的に実施していき、更なる意識向上を図る。	⇒	・学校運営協議会の学校安全委員会の行事で「安全マップ作り」をしたことや、「安全標語」の取組を南警察署署長から表彰していただいたこと等により、取組が一方通行でなくなり、子ども達や保護者にも「安全」や「命を守る」印象が強く残り、上昇したと考えられる。	⇒	・学校運営協議会の安全委員会で実施する「安全マップ作り」は110番の家」の確認と共に楽しい取組に強化させて実施したい。この他の取組も安全委員会が子どもと保護者と共に楽しみながら考えられるように話し合っていく。
4	独自の取組 アントレプレナーシップ教育の推進 小中一貫教育の推進 情報発信の充実	・「ふれあいタウン」の実施 ・「3Cプロジェクト」の推進 ・協働活動を通じた自己有用感・主体性の向上のための取組 ・「僕幼小連携」「小中連携」「小中一貫教育」の取組の推進 ・「学習プラン・生活プラン」の試行 ・児童・教員・PTA会長の交流 ・積極的なホームページの更新 ・学校だよりの内容(「学校教育方針」「小中一貫教育」等)の充実	・授業後のふりかえり ・家でお手伝い(児童) ・家庭では家族の一員としての役割を持たせている(保護者)。 ・取組後感想アンケート ・文字は丁寧に正しく書く ・誰にでも進んで挨拶できる ・家庭学習の定着・学習準備 ・学校の取組がわかりやすい ・HP等でもよくわかる(保護者)。 ・学校ホームページへのアクセス数	・「家での手伝い」は児童78%、保護者は77.8%が役割を持たせている。 ・「文字をわかりやすく書く」児童は70.2%。「誰にでも進んで挨拶できる」は88.8%。「学習準備」は84.4%の児童ができています。 ・「取組が良く分かる保護者は83.6%」 ・年間約75500回のアクセス数。	⇒	・家庭での役割の重要性の認知が広報の成果で少しずつ上昇している。 ・「ピア・サポート」や「ふれあいタウン」の取組でまめをしっかりと行った成果で自己有用感や達成感が向上した。 ・小中一貫教育では「九条学習プラン」では家庭学習や表現等を重点に、「九条生活プラン」に「清掃活動」に重点を置いて取り組む。また、学力向上のための「数学・算数教科カリキュラム」、自己有用感の向上のための「キャリア教育カリキュラム」の試行を行う。	⇒	・「ふれあいタウン」は当日だけではなく、思っている方も地域には多いが、本日は長い期間、継続して取り組んでいく。自己有用感を高めようとする。 ・小中一貫教育の取組で学力も向上している。今年「ふれあいタウン実行委員会」のメンバーに入り、中身がよくなった。 ・小中一貫教育で取組を進めている様子が学校だよりなどからもよく分かる。 ・HPや学校だよりで丁寧に発信されているので取組がよく分かる。しかし、地域には学校の教育内容や取組をしっかりと伝えるために内容を精選し文字の拡大等工夫した方がよい。	⇒	・学校運営協議会の理事やまなび支援委員会の委員が児童の企画に協力し、「ふれあいタウン」の成功に繋げ、自己有用感を高めようとする。 ・小中一貫教育の取組で学力も向上している。今年「ふれあいタウン実行委員会」のメンバーに入り、中身がよくなった。 ・小中一貫教育で取組を進めている様子が学校だよりなどからもよく分かる。 ・HPや学校だよりで丁寧に発信されているので取組がよく分かる。しかし、地域には学校の教育内容や取組をしっかりと伝えるために内容を精選し文字の拡大等工夫した方がよい。		

4 総括・次年度の課題

・確かな学力の定着に向けた取組は、関係者評価において一定の評価をいただいた。今後も、表現力向上に重点をおきながら、さらなる取組の充実と教員の授業力向上を図る。
 ・学校評価を通じ、保護者や地域の方に本校の教育活動について、理解を深めていただくことができた。
 ・学校評価は、小中9年間の教育を見据えて、小中学校で評価項目やアンケート項目を統一し、経年変化を見ていけるようにしていきたい。
 ・小中一貫教育で「キャリア教育」のカリキュラムを試行し、児童の自己有用感を向上を図っていく。